

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコルの提出が必須です
プロトコルがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	Bev+PEM
診療科名	呼吸器内科
診療科責任者名	金子 教宏
適応がん種	NSCLC(扁平上皮癌を除く)
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NSCLC-48
登録日・更新日	登録日2012年11月5日・更新日2023年8月22日
削除日	
出典	JCO 2007:25:4743
入力者	安室 修

投与順に記入(抗がん剤のみ)

	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名)	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
	希釈液					
No.1	ペバシズマブ(遺伝子組換え) (ペバシズマブBS点滴静注) 生理食塩液	100mg、400mg 100mL	15mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	90分	Day1
No.2	ペメトレキシドナトリウムヘミペンタ水和物 生理食塩液	100mg、500mg、 800mg 100mL	500mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	10分	Day1

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮可能(5日)・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>ペメトレキシド [減量基準] 以下のいずれかに該当する場合、前回用量の75%に減量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低好中球<500/mm³及び最低血小板数≥50,000/mm³ ・好中球数に関わらず最低血小板数<50,000/mm³ ・粘膜炎を除くグレード3又は4の毒性 ・入院を要する下痢(グレードは問わない)又はグレード3若しくは4の下痢 <p>以下のいずれかに該当する場合、前回用量の50%に減量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低好中球数に関わらず出血を伴う最低血小板数<50,000/mm³ ・グレード3又は4の粘膜炎 <p>[中止基準] 2回目の減量後にグレード3若しくは4の血液毒性あるいは非血液毒性が認められた場合</p>
前投薬	<p>デキサメタゾン</p> <p>ペメトレキシド初回投与の7日以上前から葉酸として1日1回0.5mg(パパンタン1g)を連日経口投与する(ペメトレキシドの投与を中止または終了する場合には、最終投与日から22日まで投与する)</p> <p>ペメトレキシド初回投与の2週間前にビタミンB12として1回1mg(メコバラミン注2A)を筋肉内投与する(ペメトレキシド投与期間中及び投与中止後22日まで9週ごと(3コースごと)に1回投与する)</p>
その他の注意事項	<p>ペバシズマブBS点滴静注の点滴時間:初回90分、2回目以降は忍容性に応じて60分、30分に短縮可</p> <p>ペバシズマブBS点滴静注の投与量算出に使用する体重は投与初回時のものとし、体重変動があっても投与量の変更は行わない</p>

記入者	安室 修
確認者	三沢 昌史